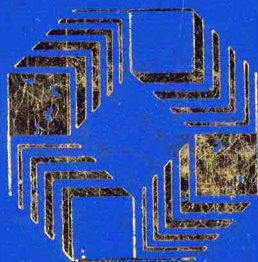


学研 漢和辞典

藤堂明保 編

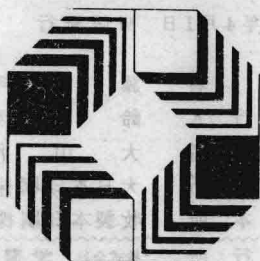


554

学研 漢和辞典

藤堂明保編

5524



学習研究社

学研漢和辞典

昭和55年4月1日 初版発行

編 者 藤 堂 明 保

発 行 人 鈴 木 泰 二

編集責任者 大 山 治 義

印 刷 所 大日本印刷株式会社

製 本 所 牧製本印刷株式会社

発 行 所 株式会社 学習研究社

(〒145) 東京都大田区上池台4-40-5

振替・東京 8-142930 番

© GAKKEN 1980 本書内容の無断複写を禁じます。

☆この本の内容に関するお問い合わせ、製本上のミスなどがありましたら、下記あてをお願いします。

文書は、東京都大田区上池台4丁目40番5号 (〒145)

学研ユーザー・サービス部「学研漢和辞典」係

電話は、東京 (03) 720-1111 (大代表)

6581-141 202-1002

刊行にあたって

文学博士

藤堂明保

ぶ厚い角板に穴をあけて通した姿をえがくと、「回」という形になる。今日の「同」という字はここから生じたもので、つらぬいた穴のどこをとっても直径は等しいので、「おなじ」という意味となった。同（ドウ）という字の仲間には数多いが、洞（つつ抜けのほらあな）・筒（つつ）・桐（つつ型の木）・胴（つつ型のどう体）のように、どれをみても共通の意味をふくんでいる。このような大切なことを理解せずに、別々に切りはなして漢字を学んでも、効果はあがらない。

この主旨を生かした中学生向きの漢和辞典を世に送り出すことは、私の長い念願であつたが、このたび学習研究社から『学研漢和辞典』を出版できたのは、まことにありがたいことである。この辞典は、中学生から高校生まで、十分みなさんの役に立つはずであり、将来さらに高い知識を求められる方は、やはり私の編集した『学研漢和辞典』を座右に備えられるとよい。

このたびの辞典には、親字約三七〇〇字と、熟語約二万八〇〇〇語とを収めてある。学生時代はよろか、社会人となつても、日常的な使用には、まずこれで十分であらう。しかも主要な文字には、字の起源とその基本的な意味についての簡明な解説がついている。人前で話をしたり、ものを書いたりする際、これらの解説は、さだめしおもしろい題材を提供してくれるにちがいない。

読み・書き・そろばんは、現代においても教育の三つの基本であり、とりわけ「読み書き」の中心は、漢字の学習である。しかし日本の教育の現状をみると、漢字の学年配当にひっぱられて、ただむやみに漢字を詰め込むだけで、系統もなければ、理論もない。先ほどの「同」洞・筒・桐・胴のようになつたがりを「漢字の仲間」という。これからは、この辞典を頼りにして、漢字を仲間ごとに系統だてて学習されるよう、おすすめしたいものである。

昭和五十五年三月一日

この辞典の使い方

この辞典の特色

- (1) この辞典は、中学生以上が国語・漢文を学習するのに役立つように編集したものです。一般社会人が、日常使用する上でも役立つように配慮してあります。
- (2) 親字は、当用漢字にとどめず、基本漢字と思われるものの約三七〇〇字を収録しています。昭和五十四年三月に国語審議会から発表された「常用漢字表案」の漢字についてはすべて収録してあります。
- (3) おもな親字には、最近の学説に基づいた漢字の成り立ち(字源)の解説があります。必要に応じて字形の変遷を図示したり、古代文字を示したりしてわかりやすくしてあります。これによって、漢字の字義や用法をしつかりつかむことができ、また成り立ちの上でつながりのある仲間の漢字がよくわかり、漢字への興味が深まるものと考えます。
- (4) 熟語は、学習上必要な語を中心に、日常生活に必要な語、また、中国の有名な故事成句や代表的な人名・書名など、約二万八〇〇〇語を収録してあります。

親字について

収録漢字

- (1) この辞典は、中学・高校の国語教科書中の漢字、一般の総合雑誌・週刊誌、さらに、印刷所等で使用される活字の頻度等々から、基本と思われる漢字およそ三七〇〇字を選び収録してあります。
- (2) 当用漢字(一八五〇字)・常用漢字表案の漢字(一九二六字)・人名用漢字(九二六字)・追加人名用漢字(二八八字)はすべて含まれています。

字体

- (1) 親字は「」の中に明朝体(二般の新聞・雑誌などで使われている書体)で示してあります。
- (2) 当用漢字、および常用漢字表案の漢字、人名用漢字の字体については、いわゆる新字体を「」に示し、必要に応じて「」の中に旧字体を示しました。

配列

- (1) 親字は部首によって分類し、部首は画数順に配列してあります。
- (2) 同じ部首の親字は、その親字から部首を除いた部分の画数の順に配列しています。
- (3) 同じ部首、同じ画数の親字は、音読みによる五十音順

(3) この辞典の使い方

になっています。

- (4) 訓読みだけの漢字については、その訓読みの五十音順になっています。

部首

部首の立て方は、従来から慣例として使われている、「康熙字典」に準じていますが、新字体を採用しているため、新たに「ㄣ」の部首をもうけたり、他の部首に移動したりして引きやすく配慮しています。また、漢字の成り立ちから考えて、従来の分類によらず、他の部首に移動させたものもあります。全〔玉の部→人の部〕などがそれです。

見出しの形

親字の見出しは、次のような体裁になっています。

① 川 3 (常) (1年)

② 価 8 (常) (5年)

③ 學 16 学(↓二)の旧字体。

(ロ) 巡 6 ↓の部三画(九九)

- (1) 一の上には、親字の部首と、部首を除いた部分の画

数を示してあります。

- (2) 一の下には、親字の総画数を示してあります。

- (3) ③の例は空見出しで、次の二種類があります。

(イ) 新字体が旧字体とかなり形が変わった場合の、旧字体の見出し。

(ロ) 部首をあやまりやすい漢字の場合に、あやまった箇所、正しい箇所を示す見出し。

いずれの場合も、その漢字の本見出しのページを示してあります。

親字の種別

- (1) 親字が、常用漢字表案にある漢字の場合は、㊦の記号をつけてあります。

- (2) 親字が、当用漢字表にあって、常用漢字表案にはない漢字の場合は、*の記号がつけてあります。

〔注〕当用漢字と、常用漢字表案の漢字の異同については、七ページに詳しい説明があります。

- (3) 親字が、人名用漢字である場合には、㊧の記号がつけてあります。人名用漢字で、常用漢字表案にもある場合には、㊦㊧の両方の記号がつけてあります。

- (4) 小学校学習指導要領に学年別漢字配当表として示されている漢字については、()の中に配当学年を示してあります。これは、小学校一年から六年まで、それぞれの学年で学ぶように定められているもので、いわゆる学習漢

字とよばれているものです。

音と訓

(1) 親字の音読みは、**圈**の記号の下にかたかなで、訓読みは、**圓**の記号の下にひらがなで示してあります。

(2) 「当用漢字音訓表」または、「常用漢字表案」にある音訓はすべて、太字で示してあります。いわゆる「表内音訓」といわれているものです。それ以外の音訓（表外音訓）は、細字で示してあります。

(3) 「当用漢字表」・「常用漢字表案」にある漢字については、太字で示す音訓と細字で示す音訓と両方ある場合がありますが、その間に「/」を入れて区切っています。なお、この場合、表外音訓については、一般的に使用されているものにかぎって示しました。

(4) 送りがないは、太字の音訓（表内音訓）にかぎって示しました。昭和四十八年に内閣告示となった「送り仮名の付け方」に従って、送りがない部分を細字で示してあります。「常用漢字表案」で追加されているものも、それに従って送りがないを示してあります。

(5) かかげるべき音訓がない場合には「」で示してあります。

筆順

(1) 「当用漢字表」または、「常用漢字表案」にある漢字に

ついては筆順を示してあります。

(2) 教育漢字八八一字の筆順は、文部省から発表された、「筆順指導の手びき」に従っています。

(3) 八八一字以外の漢字については、「筆順指導の手びき」をもとに類推して、標準的と考えられる筆順を示してあります。

(4) 筆順を示すにあたっては、実際の筆勢（ひしき）を、教科書体の漢字を使用しています。

成り立ち

(1) 主要な親字およそ二〇〇字について、漢字の成り立ちの解説があります。当用漢字でも、必要と思われるものは省略し、当用漢字以外の漢字であっても、必要と思われるものには解説があります。

(2) 成り立ちの解説は、新しい学説によっています。必要に応じて字形の変遷を図示したり、古代文字の字形を示したりして、わかりやすくしてあります。

意味

(1) **圈**の記号の下に親字の意味を解説してあります。

(2) 意味が二つ以上ある場合には、①②③……と区別し、できるだけ基本的な意味を先に、派生的な意味をあとに記述してあります。

(3) 意味のうち、わが国だけで用いられるものは、**〔国〕**の

熟語について

- 参考
- 親字の解説の最後には、必要に応じて、**圈**の記号を付けて、参考欄をもうけました。おもな内容としては、
- (1) 同音漢字の使い分けについての参考事項。
- (2) 読みまちがえたり、書きまちがえたりしやすい場合の注意事項。
- などです。

用例

親字の意味の理解を助けるため、**適宜**「内」に語例・文例を付けました。その場合、親字の該当する部分は―で代用しました。

- 記号を用いて最後に示しました。
- (4) 意味解説の中にある太字は、「当用漢字音訓表」または、「常用漢字表案」にある読み方を示しています。
- (5) もとは別々の漢字であったものが、新字体では一つの漢字に統一された場合は、**□□□□**…と分けて意味を旧漢字に則して記述してあります。

〈例〉

□〔弁〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

□〔辯〕……。

(1) 読み

「一」の下に、その熟語・句の読みを現代仮名づかいで

見出しの形

熟語の見出しは、次のような体裁になっています。

- (2) (1) 熟語・句はすべて独立させて「一」の中に示しました。
- 第二字以下の漢字に、表外字（当用漢字表・常用漢字表案のいずれにもない字）があった場合は、その漢字の右上に×の記号をつけてあります。ただし、一字めの漢字は表外字であっても、×の記号を省略しています。
- (3) 「一」内の表記は、現代の表記法を優先させています。
- 【遺跡（×蹟）】とあるのは、もと「遺蹟」と書いたものを現代の表記法では「遺跡」と書くことを示します。

この辞典には、学習上必要な語を中心に、日常生活に必要な語、また、中国の有名な故事成句や代表的な人名・書名など、約二万八〇〇〇語を収録してあります。

(1) 配列

- 熟語は、音読み、訓読みの区別なく、五十音順を原則として配列してあります。
- (2) 清音→濁音→半濁音の順。また、拗音・促音は直音のあとに配列してあります。
- (3) 一つの熟語に二つ以上の読みがある場合には、最初にかかげた読みによって配列してあります。

示してあります。

- (2) 一つの語に二つ以上の読みがある場合には・で並列して示してあります。ただし、読みによって意味が異なる場合には、□……□……と分けて示してあります。

〈例〉

【中間】□かんちゅう……□げんちゅう……

- (3) 熟語の読みは、語構成（語の組み立て）を示すために区切りで二行に分けてあります。句の読みについても、熟語の場合に準じて、二行に分けてあります。ただし、一語構成の語であっても、一行にはしないで、適宜二行に割って示しました。

意味

- (1) 一つの熟語・句に二つ以上の意味がある場合には、基本的な意味を先にして、①②③……と記述してあります。

〈例〉

【中軸】ちゅうじく ①中心をつらぬく軸。②ものごとの中心となる事がら・人。

- (2) 意味を補足する説明は、（ ）の中に記述してあります。

〈例〉

【一衣帯水】いちいだいすい（ひとすじの帯の水のうに）はばのせまい川や海。「一の間」

用例

- (1) 意味の理解を助けるために、「」内に用例を示してあります。

- (2) 用例中の見出し語にあたる部分は―で代用してあります。

す。

〈例〉

【両用】りょうよう どちらにも使えること。「水陸―」

- (3) 意味の説明が必要な用例については、「」内に（ ）を用いて記述してあります。

〈例〉

【両輪】りょうりん 二つの車輪。「車の―」（二つあつてはじめて役に立つものたえ）

対義語

- (1) 意味の記述のあとに、必要に応じて、対の記号を用い、対義語を示してあります。

〈例〉

【先攻】せんこう 野球などで、さきに攻撃（げんこう）すること。対後攻。

【並列】へいれつ ①……。②……。③……。

対②③直列。

- (2) 対の記号のあとに、②③などとあるのは、意味の②③についてののみ対義語であることを示しています。

参考

語の読み・表記・使い方などについて、注意しなければならないこと、また、その語句について知っておきたいことなどの参考事項は、適宜、▽の記号を用い、そのあとに記述してあります。なお、この記号は親字の解説

の中にも使われています。

参照

他の項目を参照してほしい場合には、↓の記号を用い、その項目を示してあります。この記号は親字の解説の中にも使われています。

難読熟語

熟語で、意味の解説が不要と思われるものは、見出しとして、取り上げてありませんが、難読^{なんどく}の熟語については、熟語欄の末尾に◆の記号をつけて、その読みだけを示してあります。

〔例〕◆一昨日^{いつさき・おと}・一入^{いっしゅ}

逆熟語

親字を二字めにもつ熟語（逆熟語）を◆の記号のあとに示しました。

〔例〕◆画一^{いっぱ}・均一^{いっぴ}・逐一^{いっし}

専門分野の表示

その語、またはその語の意味が専門用語として用いられるものは、㊦・㊧等の記号でその分野を示しました。

㊦…仏教 ㊧…哲学 ㊨…法律 ㊩…数学などがそれぞれです。

索引について

この辞典は漢字を部首順に配列していますが、部首から検索しにくいときは、音訓でも、画数でも検索できるように「音訓索引」「総画索引」があります。

音訓索引（一〇ページ）

親字の音読み・訓読みをすべて五十音順に配列した索引です。音読みはかたかな、訓読みはひらがなで、同じ読みの場合は、音↓訓の順になっています。同音、同訓の場合は総画数の順です。

総画索引（五〇ページ）

親字を総画数の少ない順に配列した索引です。同一の画数の親字は部首順に配列してあります。

漢字によっては、画数のまぎらわしいものがあります。糸を七画、または八画としてもまちがいのものではありませんが、この辞典では六画にあつてはいます。このほか、次の画数に注意してください。

二画……ㄣ 三画……子・艹〈表内字〉・乚〈表内字〉・乚・之・卩・及 四画……収・艹〈表外字〉・ㄥ〈表外字〉 五画……以

なお、画数のわかりにくい漢字については、八ページに一覧表があります。活用してください。

常用漢字表案について

現在一般に用いられている「当用漢字表」「当用漢字音訓表」等にかわるものとして、昭和五年三月に「常用漢字表案」が国語審議会から中間答申の形で公表されました。この案は、未だ内閣告示になっていませんが、この辞典は、その内容を取り入れて編集しているので、この案と現在使用されているものとのおもしろい違いをあげておきます。

1. 性格

「当用漢字表（昭和二年一月内閣告示）」は、日常使用する漢字の範囲を定めたもので、制限的色彩の濃いものです。これに対して、「常用漢字表案」は、一般の社会生活で漢字を用いる場合の目安となることを目指しています。

2. 字体

「当用漢字字体表（昭和四年四月内閣告示）」をそのまま踏襲し、例外として「燈」を「灯」にかえています。新しく追加する漢字については、「当用漢字字体表」に準じて整理を加えています。

3. 音訓

「当用漢字音訓表（昭和四年六月内閣告示）」を原則として踏襲し、新しく追加する漢字については、この表

に準じて音訓を定めています。

イ. 当用漢字表の字に加えられる音訓

栄（はえる） 危（あやぶむ） 憩（いこう）

香（かおる） 愁（うれえる） 謡（うたう）

露（ロウ） 和（オ）

ロ. 当用漢字表の字から削られる音訓

膚（はだ） 盲（めくら）

ハ. 「当用漢字音訓表」の付表になく、「常用漢字表案」の付表に追加した語

おじ 叔父・伯父 おば 叔母・伯母

さじき 栈敷 でこばこ 凸凹

4. 字種

イ. 常用漢字表案にあって当用漢字表にない字

猿 凹 渦 靴 稼 拐 涯 垣 殻 渦 喝 謁 謁

頑 扶 矯 襍 隅 溪 蜚 嫌 洪 溝 昆 崎 謁

棧 傘 肢 遮 蛇 酌 汁 塾 尚 宵 繩 堀 堀

甚 据 杉 齊 近 仙 桧 挿 曹 槽 藻 駄 堀

棚 挑 眺 釣 塚 漬 亭 偵 泥 搭 櫟 洞 凸

屯 把 霸 漢 肌 鉢 鉢 屏 猫 類 瓶 霧 罈

泡 俸 麥 朴 僕 堀 磨 抹 岬 妄 厄 癒 悠

羅 竜 尻 梓 （計九十五字）

当用漢字表にあって常用漢字表案にない字

翁 虞 嚇 且 侯 勺 爵 薪 帥 鍾 敵 銑 但

脹 朕 奴 婆 奴 諫 （計十九字）

(9) 記号一覧・画数のわかりにくい漢字一覧

記号一覧

親字に関するもの

④

常用漢字表案の字

*

当用漢字であるが常用漢字表案にない字

⑤

人名用漢字

(1年)
(6年)

学習漢字の配当学年

⑥

音読み

⑦

訓読み

⑧
なり
たち

字の成り立ち

⑨

意味

⑩
国

国語の中でだけ使われる意味

⑪

参考

熟語に関するもの

×

常用漢字表案にない字

⑫

仏教用語

⑬

哲学用語

⑭

法律用語

⑮

数学用語

⑯

対義語

⑰

書名

共通のもの

▽

参考

↓

参照

画数のまちがえやすい漢字一覧表

一画	乙	二画	乃	了	又	九
三画	万	之	及	乞	己	互
四画	卅	凶	勾	切	収	比
五画	世	以	写	凹	凸	出
六画	亥	兕	充	再	每	印
七画	似	垂	低	即	呂	局
八画	乳	免	妻	取	延	承
九画	乘	係	廻	後	政	派
一〇画	孫	旅	留	紙	脈	純
一一画	龜	強	液	淵	率	祭
一二画	偉	喪	壺	魔	滿	葉
一三画	僅	夢	愛	新	棄	置
一四画	樣	疑	絲	製	誤	綫
一五画	慮	歛	潔	穢	稽	藏
一六画	奮	墳	機	興	薰	衛
一七画	優	檀	濯	療	磯	聰
一八画	叢	嚙	櫃	濫	滿	職
一九画	燦	壘	霸	警	離	麗
二〇画	競	讓	響	纂	離	魏
二二画	蠟	躑	鶴			
二三画	聲	驚				
二四画						
二五画						
二六画						
二七画						
二八画						
二九画						
三〇画						
三一画						
三二画						
三三画						
三四画						
三五画						
三六画						
三七画						
三八画						
三九画						
四〇画						
四一画						
四二画						
四三画						
四四画						
四五画						
四六画						
四七画						
四八画						
四九画						
五〇画						
五一画						
五二画						
五三画						
五四画						
五五画						
五六画						
五七画						
五八画						
五九画						
六〇画						
六一画						
六二画						
六三画						
六四画						
六五画						
六六画						
六七画						
六八画						
六九画						
七〇画						
七一画						
七二画						
七三画						
七四画						
七五画						
七六画						
七七画						
七八画						
七九画						
八〇画						
八一画						
八二画						
八三画						
八四画						
八五画						
八六画						
八七画						
八八画						
八九画						
九〇画						
九一画						
九二画						
九三画						
九四画						
九五画						
九六画						
九七画						
九八画						
九九画						
一〇〇画						

音訓索引

ア		ア		アイ		あい		あいだ		あう		あえぐ		あえて		あえる		あお	
【ア・あ】		ア		アイ		あい		あいだ		あう		あえぐ		あえて		あえる		あお	
碧	六六	青	六六	敢	六六	喘	六六	遭	六六	逢	六六	合	六六	間	六六	藍	六六	間	六六
あからめる		あがめる		あかね		あがなう		あかつき		あがた		あかし		あかす		あかい		あかい	
赤	六六	明	六六	赤	六六	崇	六六	茜	六六	贖	六六	曉	六六	泉	六六	証	六六	銅	六六
あける		あける		あけぼの		あくる		あくる		あくる		あくる		あくる		あくる		あくる	
空	六六	明	六六	曜	六六	朱	六六	明	六六	開	六六	空	六六	明	六六	握	六六	厭	六六
あじわう		あした		あじ		あし		あさ		あさ		あさ		あさ		あさ		あさ	
味	六六	朝	六六	旦	六六	珍	六六	董	六六	脚	六六	足	六六	鮮	六六	欺	六六	糾	六六
あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる		あたためる	
暖	六六	温	六六	暖	六六	温	六六	暖	六六	温	六六	温	六六	温	六六	温	六六	温	六六
あ		あ		あ		あ		あ		あ		あ		あ		あ		あ	
趾	六六	痕	六六	後	六六	址	六六	充	六六	宛	六六	詭	六六	莧	六六	莧	六六	莧	六六

☆この索引は、本辞典に収めた漢字（親字）の音と訓を現代仮名遣いによつて五十音順に配列し、ページ数を示したものである。
 ☆音はカタカナ、調はひらがなで示した。
 ☆同じ読みの中は、音訓の順に配列した。また、同じ音訓の中は、総画数順に、さらに同画数の中は部首順に配列した。

(11) あと～いく 音訓索引

7-2

いくさ	いける	いこう	いさお	いさぎよい	いさか	いさめる	いしづえ	いしぶみぞ	いずくみ	いそがしい	いそぐ	いたく	いたす	いたざら	いただき
軍六〇	池二五	生三〇	活三九	息二八	憩二六	功二八	勲二六	潔二六	勇二八	諫二八	石二八	碑二八	安二八	泉二八	何二八
いたたく	いたむ	いためる	いたる	いたわる	イチ	いちじるしい	イツ	乙二八	逸二八	溢二八	噎二八	慈二八	偽二八	詐二八	糸二八
戴二八	悼二八	傷二八	炒二八	痛二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八	傷二八
いどむ	いな	いはずま	いぬ	いぬい	いのこ	いのち	いのし	いばら	いばかり	いまめる	いまましめる	いまだ	いみな	いも	いもうと
挑二八	否二八	電二八	犬二八	戌二八	狗二八	乾二八	桶二八	猪二八	豚二八	家二八	命二八	折二八	荆二八	茨二八	棘二八
いやしむ	いやしめる	いやす	いよいよ	いらか	いる	いれる	いろどる	いわ	いわう	いわく	いわし	いわんや	イン	イ	イ
卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇	卑一〇
イン	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
員二八	股二八	院二八	寅二八	陰二八	飲二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八	慙二八
うえる	うかがう	うかべる	うかる	うかく	うけたまわる	うける	うかす	うごめく	うさぎ	うし	うし	うし	うし	うし	うし
飢二八	植二八	蒔二八	魚二八	候二八	偵二八	視二八	窺二八	穿二八	聖二八	浮二八	浮二八	受二八	承二八	享二八	承二八
うえる	うかがう	うかべる	うかる	うかく	うけたまわる	うける	うかす	うごめく	うさぎ	うし	うし	うし	うし	うし	うし
飢二八	植二八	蒔二八	魚二八	候二八	偵二八	視二八	窺二八	穿二八	聖二八	浮二八	浮二八	受二八	承二八	享二八	承二八

(13) ろしなう～エン 音訓索引

545

